

## 米国農務省による2019市場年度の作付面積の調査

米国農務省は6月28日に2019市場年度の作物の作付面積の調査結果を報告しました。

<https://downloads.usda.library.cornell.edu/usda-esmis/files/j098zb09z/8s45qm344/sb397k59f/acrg0619.pdf>

2019年は例年になく多い降雨によって、主要生産州でトウモロコシなどの作物の作付けに遅れが生じています。米国農務省では、再調査の必要性を精査し、必要に応じて以下の州での作付面積の修正値を8月12日を目標に発表するとしています。ここでは、6月28日時点での米国農務省の発表の概要をお知らせします。

トウモロコシの再調査対象州:イリノイ州、インディアナ州、アイオワ州、カンザス州、ミシガン州、ミネソタ州、ミズーリ州、ネブラスカ州、ニューヨーク州、ノースダコタ州、オハイオ州、サウスダコタ州、ウィスコンシン州

ソルガムの再調査対象州:カンザス州

### トウモロコシの生育に関する6月28日時点までの状況

トウモロコシについて、粗飼料用も含めたすべての作付面積は、昨年より3パーセント高い9,170万エーカーと見積もっています。そのうち、昨年より2パーセント高い8,360万エーカーを生産者が穀物として収穫すると予想されています。

調査に参加した生産者は、トウモロコシの作付けを予定していた農地の83パーセントの播種が調査時に完了していると報告していますが、これは過去10年間の平均よりかなり低い数字です。史上最低の作付面積が予測されているのはロードアイランド州で、ネバダ州とオレゴン州では史上最高が予測されています。

4月14日までに、全米のトウモロコシ作付け完了面積は3パーセントでしたが、これは昨年と同じで過去5年平均より2パーセント低い数字でした。4月21日には全米のトウモロコシ作付け予定面積の6パーセントで播種が完了し、昨年より1パーセント高かったものの、過去5年平均より6パーセント低い数字でした。すべての州で過去5年よりも遅いペースでしたが、特にミシガン州、ミネソタ州、ノースダコタ州、ペンシルベニア州、サウスダコタ州では作付けが始まっていませんでした。

5月5日には、全米のトウモロコシ作付け予定面積の23パーセントが作付けられましたが、それは昨年より13パーセント低く、過去5年平均より23パーセント低い数字でした。5月5日には全米のトウモロコシが萌芽し、昨年より1パーセント低く、過去5年平均より7パーセント低い数字でした。5月12日には、全米トウモロコシ作付けの30パーセントを完了させましたが、これは昨年

より29パーセント低く、過去5年平均より36パーセント低い数字でした。5月19日には、全米トウモロコシ作付けの49パーセントが完了しましたが、昨年より29パーセント低く、過去5年平均より31パーセント低い数字でした。アイオワ州では、トウモロコシ作付け予定面積の70パーセントの播種が5月19日までに完了しましたが、昨年より13パーセント、過去5年平均より19パーセント低い数字でした。全米トウモロコシ作付け面積の19パーセントで、5月19日までに萌芽が見られ、これは昨年より28パーセント、過去5年平均より30パーセント低い数字でした。5月19日までにアイオワ州での萌芽は州内のトウモロコシ作付面積の20パーセントで、昨年より29パーセント、過去5年平均より33パーセント低い数字でした。5月26日までに、全米のトウモロコシ作付面積の58パーセントで完了しましたが、これは昨年と過去5年平均の両方より32パーセント低い数字でした。5月26日には、全米のトウモロコシ作付け面積の32パーセントが萌芽し、昨年と過去5年平均より37パーセント低い数字でした。調査された18州のうち13州での萌芽が、過去5年平均より20パーセント以上遅れていました。

6月2日までに、全米のトウモロコシ作付面積の67パーセントで作付けが完了しましたが、昨年と過去5年平均の両方より29パーセント遅れていました。6月2日までに46パーセントの萌芽が完了しましたが、昨年と過去5年平均の両方より38パーセント遅れていました。調査された18州のうち13州で、萌芽は過去5年平均より20パーセント以上遅れていました。6月9日までに、全米のトウモロコシ作付面積の83パーセントで作付けられましたが、昨年と過去5年平均の両方より16パーセント遅れていました。6月9日までに62パーセントが萌芽しましたが、昨年と過去5年平均の両方より31パーセント遅れでした。6月16日までに、全米のトウモロコシ作付面積の92パーセントで作付けが完了しましたが、昨年と過去5年平均の両方より8パーセント遅れていました。6月16日までに79パーセントの萌芽が完了しましたが、昨年と過去5年平均の両方より18パーセント遅れていました。6月9日までに、全米のトウモロコシ作付面積の96パーセントで作付けられましたが、昨年と過去5年平均の両方より4パーセント遅れていました。6月9日までに89パーセントが萌芽しましたが、昨年より11パーセント、過去5年平均より10パーセント遅れでした。ミシガン州、オハイオ州、サウスダコタ州では、その時点で萌芽が過去5年平均より20パーセント以上遅れていました。6月23日の時点で、56パーセントのトウモロコシが、「とても良い」あるいは「良い」作柄で、昨年の同時点より21パーセント低い数字でした。

今年のトウモロコシ作付け面積のうち、92パーセントが遺伝子組み換え品種で、昨年から変わりませんでした。遺伝子組

み換え種子の形質には、害虫抵抗性(Bt)、除草剤耐性、害虫抵抗性と除草剤耐性の両方を併せ持つスタック遺伝子が含まれています。

### ソルガムの生育に関する6月28日時点までの状況

2019年に作付けされたすべての用途向けのソルガムの面

積は513万エーカーで、昨年より10パーセント低くなりました。ソルガムの主生産州であるカンザス州とテキサス州で全米の作付面積の79パーセントを占めています。そのうち、昨年より9パーセント低い459万エーカーで、穀物として収穫が行われると予測されています。

### すべての用途向けトウモロコシ作付面積と穀物用収穫面積-州と全米 2018年/2019年

1,000エーカー

州名	すべての用途向け		穀物用収穫面積	
	2018	2019	2018	2019予測
アラバマ州	260	320	250	305
アリゾナ州	70	85	15	41
アーカンソー州	660	810	645	780
カリフォルニア州	430	450	65	95
コロラド州	1,470	1,470	1,200	1,200
コネチカット州*	23	25	(NA)	(NA)
デラウェア州	170	200	166	190
フロリダ州	100	80	65	45
ジョージア州	325	350	285	310
アイダホ州	360	340	135	110
イリノイ州	11,000	11,000	10,850	10,800
インディアナ州	5,350	5,500	5,200	5,300
アイオワ州	13,200	13,600	12,800	13,200
カンザス州	5,450	5,900	5,000	5,530
ケンタッキー州	1,340	1,650	1,230	1,550
ルイジアナ州	460	570	450	550
メイン州*	31	32	(NA)	(NA)
メリーランド州	450	500	390	430
マサチューセッツ州*	14	15	(NA)	(NA)
ミシガン州	2,300	2,300	1,940	1,950
ミネソタ州	7,900	8,000	7,490	7,500
ミシシッピ州	480	590	465	560
ミズーリ州	3,500	3,400	3,330	3,200
モンタナ州	115	130	68	70
ネブラスカ州	9,600	10,000	9,310	9,650
ネバダ州*	13	14	(NA)	(NA)
ニューハンプシャー州*	13	14	(NA)	(NA)
ニュージャージー州	72	77	61	63
ニューメキシコ州	135	120	35	35
ニューヨーク州	1,100	1,120	645	590
ノースカロライナ州	910	970	830	890
ノースダコタ州	3,150	3,700	2,930	3,450
オハイオ州	3,500	3,300	3,300	3,050
オクラホマ州	320	350	280	305
オレゴン州	80	100	45	65
ペンシルベニア州	1,350	1,400	950	960
ロードアイランド州*	2	2	(NA)	(NA)
サウスカロライナ州	340	410	310	370
サウスダコタ州	5,300	4,800	4,860	4,320
テネシー州	740	1,000	690	950
テキサス州	2,200	2,200	1,750	1,800
ユタ州	70	80	22	27
バーモント州*	85	89	(NA)	(NA)
バージニア州	485	530	325	370
ワシントン州	165	160	85	80
ウェストヴァージニア州	46	52	33	39
ウィスコンシン州	3,900	3,800	3,170	2,800
ワイオミング州	95	95	70	65
全米	89,129	91,700	81,740	83,595

(NA) 回答不可

\*:穀物用収穫面積は推定されていない。

6月23日の時点で、ソルガム作付面積の84パーセントで播種が完了しましたが、これは昨年より10パーセント、過去5年平均より7パーセント遅れています。17パーセントで出穂しましたが、これは昨年と過去5年平均の両方より3パーセント遅れています。6月23日の時点で、72パーセントが「とても良い」あるいは「良い」作柄で、昨年の同時点では56パーセントでした。

### 大麦の生育に関する6月28日時点までの状況

2019穀物年度では、前年より12パーセント高い286万エーカーで大麦が作付けられました。収穫面積は2018年より18

パーセント多い233万エーカーと予想されています。

全米の大麦生産面積の94パーセントが6月2日までに播種が完了しましたが、これは昨年より2パーセント、過去5年平均より3パーセント低い数字です。6月16日までに92パーセントの大麦生産面積で出芽しましたが、昨年より3パーセント、過去5年平均より4パーセント低い数字です。6月23日までに、全米の大麦生産面積の9パーセントで出穂が完了しましたが、昨年より16パーセント、過去5年平均より21パーセント遅れでした。全米では、6月23日時点で、昨年の同時点より11パーセント低い72パーセントが「とても良い」あるいは「良い」作柄でした。

## 2019年7月のアイオワ州のトウモロコシ作柄

春の作付け期の多雨によって、米国のトウモロコシの主要生産地である中西部では、作付けの遅れや断念が広がっています。ここでは、7月12日時点での全米第一位のトウモロコシ生産州であるアイオワ州の生産者の状況をお伝えします。



写真1 ケニー農場の農場主、マーク・ケニー氏

アイオワ州ネバダにあるケニー(Kenney)家族農場は、3,000エーカーで主にトウモロコシと大豆を生産しています。農場主のマーク・ケニー氏(写真1)は父と1名の従業員で3,000エーカーすべての農作業を行っています。また、妻のジェニファー・ケニー氏はアイオワ州農業局の次長を務めています(写真2)。以降はマーク・ケニー氏による説明です。

今年は春先の播種の時期に非常に課題の多い年でしたが、ケニー農場の位置している地域では、天候の問題が比較的に、幸運にもタイムリーな播種が可能でした。今年は播種の時期に多雨で、農地の水分が過剰になり、ぬかるんでトラクターが入ることができずに播種が遅れている地域が多くありました。しかし、7月の時点では中西部は高温で乾燥しているため、今後の生育の状況にどのような影響が出るか注視してい



写真2 マーク・ケニー氏とアイオワ州農業局次長を務める妻のジェニー・ケニー氏

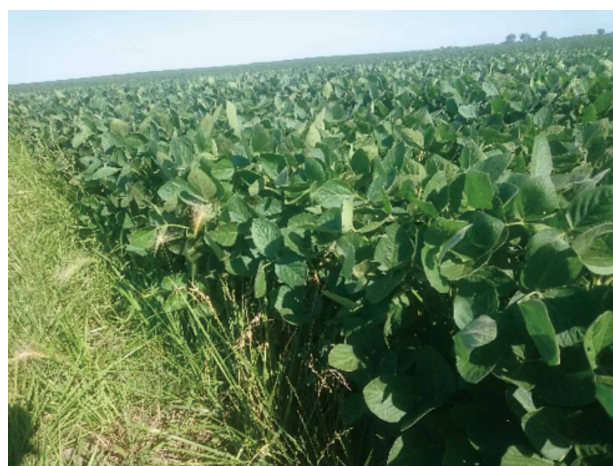


写真3 収穫を2か月後に控える大豆畑

ます。

ケニー農場では、1970年代から13回の干ばつと多くの洪水に見舞われてきました。そのような過酷な年でも、生産を続けていくしか生産者の道はありません。ケニー農場は140年前から続いている家族農場ですが、当初からは農業機械も技術も大きく進歩しています。しかし、農作業自体は同じなので、少ない人数で多くの仕事を済ませることができるようになりました。たとえば、祖父は馬を使って播種をしていましたが、その当時は1日

に何エーカーも播種できませんでした。現在では1日で100エーカー(約40ヘクタール)の農地に播種することができます。この間の技術の進歩は、トウモロコシの形質(遺伝的性質)の育種や遺伝子組み換え技術による改良、GPSの利用によって精密に位置を把握することによる効率的な作業などがあります。遺伝子組み換え技術は、トウモロコシ農家にとっては大きな福音となった技術です。遺伝子組み換え技術のなかった20年前までは、農薬散布や除草などの農作業は大きな負担でした。できれば、もっと用途を広げてほしいと考えています。

栽培されている大豆は、異常気象の影響を全く受けていま

せん。写真3の大豆は、ちょうど2か月後の9月7日には収穫できると思います。トウモロコシの収穫日程の予測は、成熟度などにいろいろなファクターが絡むので大豆よりも難しくなります。ヒョウの被害などがなければ、どちらも順調に進むと思われる

す。ケニー農場は、トウモロコシ生産地の中でも、天候に恵まれた地域に位置しています。今後の生育の進捗によって、状況が明らかになってきますが、コーンベルトの中には作柄の良くない地域もあるので、今後の情報に注意を払っていく必要があります。

## 米国農務省「世界農業需給予測(WASDE)」による 飼料穀物(トウモロコシ、ソルガム、大麦)需給概要の抜粋

2019年7月11日米国農務省発表の世界農業需給予測の米国産飼料穀物に関する部分の抜粋の参考和訳を以下に掲載いたします。WASDE のフルレポートについては(<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>)よりご確認ください。また、数値や内容については、原文のレポートのものが優先いたします。各項目の詳細、注釈についても原文をご参照ください。

今月の2019/20年度の米国産粗粒穀物の見通しは、生産量と期首在庫の引き上げ、飼料そのほかへの利用の拡大、食品・種子・産業量(FSI)利用の引き下げと期末在庫の上方修正となっています。期首在庫は、2018/19年度の利用が縮小する予測を反映して1億4,500万ブッシェルに引き上げられています。輸出は、現時点での輸出販売残高と2013年以降の月ベースで最低であった6月の出荷量をもとに、引き下げられています。飼料そのほかへの利用は、6月28日の第3四半期までの穀物在庫レポートで示された減少に基づいて引き下げられています。FSIへの利用は、エタノール以外の産業用利用がいくつかの категорияで減少の予測となったことから引き下げられています。

2019/20年度のトウモロコシ生産量の予測は、6月28日の作付面積レポートで作付けと収穫面積が引き上げられたことから、1億9,500万ブッシェル引き上げられています。作付け調査の時点での作付けが過剰な降雨によって妨げられていたことから、主要生産州の数州でトウモロコシの作付けられる面積がまだ残されています。農務省では7月に2019年度の作付面積の更新情報を収集し、そのデータによって変更が必要な場合には、8月の穀物生産レポートで作付け面積予測の更新を発表する予定です。トウモロコシの全米平均単収は、1エーカーあたり166ブッシェルで変更はありません。

穀物進捗レポートでのシルキングの進捗は、過去の平均より遅れていて、多くのトウモロコシが7月後半から8月初旬に重要な受粉期を迎えることになります。飼料そのほかへの利用量は、生産量の増加を反映して2,500万ブッシェル引き上げら

れています。FSIは、エタノール生産以外への産業用利用の予測が引き下げられていることを反映して、2,000万ブッシェル下方修正されています。過去の貿易と利用推計値は統計局の修正に基づいて若干訂正されています。供給の増加が必要の増加を上回ることから、在庫は3億3,500万ブッシェル引き上げられて20億ブッシェルとなっています。年間平均農家出荷トウモロコシ価格は10セント引き下げられて1ブッシェルあたり\$3.70となっています。

米国外の2019/20年度の粗粒穀物の見通しは、先月と比較して、生産量と貿易量の引き上げと、在庫の若干の減少となっています。ウクライナのトウモロコシ生産量は、作付け面積の引き上げをもとに上方修正されています。大麦の生産量は、カナダで引き上げられていますが、ウクライナとインドで引き下げられています。2018/19年度のアルゼンチンでのトウモロコシ生産量は、現時点までの収穫結果に基づいて引き上げられています。2019/20年度の主な世界の貿易での変更は、ウクライナのトウモロコシ輸出の増大とジンバブエでの輸入の増大となっています。2018/19年度のトウモロコシ輸出量は、6月の予想より多い出荷を反映して、アルゼンチンとブラジルで引き上げられています。米国外でのトウモロコシの期末在庫価格は、先月から実質変わっていません。

ネットワークに関するご意見、ご感想をお寄せ下さい。



**U.S. GRAINS COUNCIL** アメリカ穀物協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目2番20号  
第3虎の門電気ビル11階

Tel: 03-6206-1041 Fax: 03-6205-4960

E-mail: [grainsjp@gol.com](mailto:grainsjp@gol.com)

本部ホームページ(英語): <http://www.grains.org>  
日本事務所ホームページ(日本語): <http://grainsjp.org/>